

医療関係者と患者さんの笑顔のために

田辺三菱製薬株式会社 東京支店  
高橋 光

私がMRを志望した理由は、薬学部卒でMRという職業が身近に感じられた事、そして営業職という点で「より多くの人と出逢える機会がある」「自分自身で色々考えて行動ができる魅力的な仕事内容」に惹かれたからです。その中でも田辺製薬(当時)を選択した理由は、製品ラインナップが豊富で多くの科に訪問でき、多様な知識・経験が得られると考えたからです。田辺製薬にはオーファンドラッグ(希少医薬品)やA(抗リウマチ薬)のような患者さんの人生そのものを変えるような高い可能性を持った薬剤があり、社会貢献度の高い会社だと感じた事も大きな理由です。

入社して2年半は東京都内エリア担当として開業医の先生方を主に担当させて頂きました。この期間に医師、コメディカルの方々、MSさん、会社の先輩方から学ばせて頂いた事が今の自分のMR活動の基本となっています。特に同じエリア担当の先輩から「近道はなく、基本、何事にも誠実に対応する事が大事。相手の立場で考えて行動していけば相手も人間なのだから、いつかは通じる」と教えて頂いた事が今でも私の営業活動のモットーになっています。「誠実な対応、相手の立場で考える事」の大切さは、どんな仕事にも共通する事ですが、それを実際に実行する事は非常に難しく、私自身も「相手の意を汲んで行動する」事の難しさを日々実感しています。まだまだ相手の意を十分に汲めず失敗の多い毎日ですが「誠実な対応、相手の立場になって考える」事を心がけて日々活動していきたいと考えています。

エリア担当期間は幅広い診療科に様々な製品を紹介する機会があり、先生方に製品特性を紹介し、納得を得られて処方頂くというMRの「面白み」も体験できましたし、「情報提供の大切さ」を実感する事もできました。特に思い出深い経験としては、A(抗リウマチ薬)を投与された患者さんから「こんなに良くなるなんて思ってもみなかった。今までは何をやるにも億劫だったけど、最近は料理もするし外にも出かけられる。笑顔なんて作れと言われたって痛みで無理だったけど、今は笑顔でいられる。本当に嬉しい」と言って頂いた事です。当初は「生物学的製剤」という響きに馴染みがないためか「副作用が怖い、投与が面倒」とのイメージで、採用が困難な先でした。しかし「リウマチ患者さんがいらっしゃる＝抗リウマチ薬Aを必要としている施設」と信じ、毎週諦めずに情報提供を続けた結果、薬剤の必要性をご理解頂き、最終的には投与へと結びつきました。

具体的には「聞き取り」(どのような患者さんを診ておられ、どのような点で困っておられるか)の徹底を心がけ、それに基づき医療関係者のニーズに沿う情報提供を

行った事が、先生や看護師の方々にご理解頂き、投与に繋がった大きな理由だと考えています。採用後、当初は消極的であった先生・看護師の方々から「今までリウマチは治らないと思っていた。医者として対症療法しかできず歯痒い思いだったが、こんないい薬を患者さんに紹介できて嬉しい」「Bさんがすごく良くなり、診ている方も嬉しい。他の患者さんにも、つついAの話をしてしまう」とお聞きした時は、「諦めず紹介を続けて良かった」と強く思いました。普段の活動の中で医療関係者・患者さんから反応をいただける事はそう多くはありませんが、自分の活動の一端(情報提供)がお役に立てた事で、MRが「社会貢献度が高く、やりがいのある仕事」だと改めて実感する事ができました。何より医療関係者・患者さんの「笑顔」に繋がったとき、MRになって本当に良かったと感じました。

昨年C大学を担当していますが、まだまだ不慣れで、学会・ガイドラインに影響を与える医学界をリードするトップリーダーの先生方へ情報提供する難しさに戸惑いを感じています。また限られた面談時間の中で専門性の高い情報提供が求められ、準備に費やす時間が多くなる等、環境・活動スタイルも大きく変わりました。しかしながら基本的にはこれまで同様「情報提供→医師の理解・納得→処方」が医療関係者・患者様のお役に立てた時に大きな喜びがあると考えています。担当当初、事前準備に時間をかけた論文を紹介した後日、先生から「この前紹介してもらった事を思い出し、外来で使いました」と言って頂き、とても嬉しかった事を覚えています。まだまだ日々余裕がないというのが現状ですが、自分の活動がいつか患者さんの笑顔に結びつく事を目指して日々勉強していきたいと思います。これからも初心を忘れず、会社・患者さん・医療関係者、社会に貢献するには「自分に何ができるのか？」を考え日々活動していきたいと思います。

2007年10月、合併によって田辺三菱製薬となり、製品数、MR数が業界トップクラスとなって社会への影響力と責任が大きくなりました。私自身も会社の成長に負けぬよう志を高く持ち自己研鑽に励みたいと思います。そして「医療の一端を担うMR職」を通じ自己成長していきたいと思います。

(MR経験5年)